

別冊 おおいだものがたり

～資料館資料編～ ■「小松均作品展」より

資料館で開催中の「小松均作品展」の中から、今回はナマズを描いた作品をご紹介します。その名の通り『鯰』と題された20号ほどのこの作品は、画面いっぱいに一匹のナマズが描かれています。ギョロっとした黄色い目と赤い瞳が特徴的ですが、何より背中模様の際立っています。まだらの模様はまったく不規則で、大小・濃淡様々にナマズを埋め尽くしています。執拗とさえいえるこの模様によって、ナマズに命が吹き込まれているようです。



小松均の作品は大原風景や富士山、山形県内では最上川の連作がよく知られていますが、キャリアの初期の頃はむしろ人物や動植物を多く描いていました。昭和6年(1931)の院展へは二曲一双屏風(二つ折りの屏風二面)の『鯰』が出品されています。当麻寺中之坊の絵天井に寄進したのもやはりナマズの絵で、池沼の生物を好んでモチーフにしていましたが、昭和30年代頃からはパノラマ画面に雄大な景色を描いた作品が描かれるようになっていきます。

そんな中、昭和47年(1972)の院展に再びナマズを描いた作品が出品されます。それは大画面二面に28匹ものナマズを描いた『鯰の池』という作品でした。昭和44年から46年までの三年間院展へは最上川シリーズを連続して発表しており、さらにこの後も昭和48年・49年と最上川の大作が続きます。最上川の連作途中に割って入るナマズの絵ですが、実はこのナマズは最上川のナマズ、さらにいえば大石田のナマズなのです。

昭和46年、最上川取材のため大石田を訪れた小松均は、滞在中の長い夜を最上川で捕ったナマズの写生に費やすことにしました。この時ナマズの背中模様が人間界には無い自然ならではの造形であることに魅せられたといいます。思いを深くして写生に熱を入れ、さらにこのナマズを持ち帰って完成させたのが昭和47年の院展出品作です。今回ご紹介の『鯰』もこれに酷似しており、やはり大石田のナマズであろうと考えられます。

院展向けのような大型作品としてのナマズの絵は最上川や富士山ほど描かれてはいませんが、友人たちへ配る席画などではよく描かれたようで多くの作品が残っています。これら即興で描かれたナマズは戯画的であり、また擬人的でもあります。長いヒゲの男が不敵に笑うようにも見えるナマズの絵は、強い生命力や泥臭さも含めて、髭面の自身を写す似顔絵代わりに描いていたのかもしれない。

「小松均作品展」は令和6年6月30日(日)まで



大石田町公式アカウント開設

LINEはじめました

防災情報や各種行政情報を受け取ることができます。

友だち登録をお願いします!

登録方法

右の二次元コードを読み取って友だちに追加してください。



大石田町公式LINE

防災放送の内容を

電話で確認できます

防災放送が聞き取りにくい、放送内容を確認したい等のご意見をいただき、町では防災放送確認ダイヤルサービスを開始しました。

このダイヤルは定時(夕方6時のメロディ等)放送を含め、直近の放送から8時間以内の内容を順次聞くことができます。

確認ダイヤル: 0237-48-8444

■総務課総務グループ Tel.35-2111 (内線218)

町の人口 令和6年5月1日現在

世帯数	2,231戸	(0)
総人口	6,070人	(-6)
男	3,017人	(-2)
女	3,053人	(-4)

(4月中の異動)

出生 1人 転入 19人
死亡 11人 転出 15人

*この人数は外国人も含めたものです。